

2013/12

リサーチ

No.119

通巻
176

平成25年12月18日

発行者
北海道公民館協会
会長 松藤 藤吉
〒060-0002 札幌市中央区北2西7
かでの2・7 (9F)
道立生涯学習推進センター内
011(271)2825

全国公民館研究集会

富良野市で開催

第三十五回目を迎えます「全国公民館研究集会」が十月十七日～十八日の二日間、富良野文化会館を主会場に開催されました。北海道で開催されるのは、平成十二年、釧路市以来十三年ぶりの大会になりました。全国から八百五十名を超える参加申し込みがありました。十月十六日には台風二十六号の日本への接近により、本州からの参加予定者にキャンセルが発生しました。また、台風の影響で、北海道上空に北からの強い寒気が流れ込んだため、前年より一か月以上も早い降雪がみられ、上川管内を初め道東・オホーツク方面でも大雪となるなど、交通障害や停電の影響で公民館が避難所となった自治体もあり、道内からの参加者にも影響が出たところです。本州からの参加者には、山々の紅葉と雪化粧を同時に観賞することができると、貴重な体験をされたのではないでしょう。

今回の全国公民館研究集会は、今

まで県庁所在地又はそれに類する地での開催が多かったものを、地域で公民館活動を熱心に展開している地方自治体で開催するという、初めての試みでありました。例年の全国大会には千五百人程が参加してありますが、今回は約半分の八百五十八名の申込でした。その内、道内からの申し込みは五百五名でした。参加いただきました皆さんに改めてお礼を申し上げますとともに、今回の全国大会の開催を機に道内における公民館活動のさらなる充実・発展を願うものであります。

開催にあたりましては、多くの団体の後援をいただき、さらには、道公民館協会役員並びに上川支部役員を始め、開催地の富良野市教育委員会並びに富良野沿線教育委員会及び社会教育委員、上川管内社会教育主事会の皆さんなど多くの方々にご協力をいただきました。

また、一日目の夜にはレセプションが三百名を超える皆さんの参加に

より新富良野プリンスホテルで開催され、楽しく有意義なひと時を過ごすことができました。全国並びに道内からの参加者が親睦交流を深めたほか、各市町村から提供いただきました特産品、地元へそ踊りの実演も大変好評でした。協賛いただきました企業並びに関係されました団体、関係者の皆様に、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

なお、大会内容は、現在、報告書としてまとめており、出来上がり次第関係者・参加者へ配布の予定です。今年度は北海道大会を全国研究会と兼ねましたが、二十六年度の北海道公民館大会は道東の北見市で十月二十三日・二十四日開催されます。皆さんの参加をお待ちしています。



松藤実行委員長 開会挨拶



北海道議会議員 本間 勲様のご挨拶



高橋はるみ知事より歓迎のお言葉

歓迎  **全国各地よりお越しの皆様**
ようこそ！北海道の「へそ」富良野市へ
第35回 全国公民館研究集会 in へらの北海道 / 第57回北海道公民館大会 開催地実行委員会一同



全国実行委員



北海道教育委員会教育長
立川 宏様



来賓席の様子



レセプション風景



「公民館の灯火と断熱材」

公益社団法人全国公民館連合会

会長 鹿 熊 久 三

十月に第三十五回全国公民館研究集会在北海道富良野市で行われました。台風二十六号の接近により、参加者の移動が危ぶまれ一部参加取りやめ等発生しましたが、当日は快晴に恵まれ、大きな実りをもって終了できましたことを、厚くお礼申し上げます。今回の目玉であった「スーパース塾」についても、すべての会場をまわったところ、各塾長をはじめ登壇したみなさんそれぞれの熱気を感ずることができたことを主催団体のひとつとして嬉しく感じました。

さて、今年も十一月十四～十五日に開催された近畿公民館大会をもって予定されていたすべてのブロック公民館大会が終了しました。今年は近畿を除くすべての大会に台風が接近する当たり年でしたが、前後の移動に大きな影響があったもののほと

んどの大会で、当日は好天に恵まれたことは関係各位の想いがもたらした好天であると解釈しております。

さて、本連合会では全国公民館研究集会及びブロック公民館大会の開催形態等について改革を進めていきます。これは先ほどの「関係各位の想い」と表現をしましたが、長年公民館活動の振興に邁進してきたところ、「公民館人」の想いが埋没してない

かと危惧しています。毎年一つの開催地に一堂に会しての実施も良い面はありますが、旅費や参加時間も限られてきつつある状態では、参加したくとも叶わない実態もあろうかと存じます。それならば、全国七地区で行う公民館大会を全国公民館研究集會に位置づけ、公民館人の想いが具体的な声となり、熱く盛り上げられ、社会教育の意義や存在感を各方面に示すことができるとともに、と

きとして迷いを生じさせている公民館人にとっても、多くの仲間を感じることができ、自信を持って事業の推進に熱い想いを傾注できるとの期待もあります。

現場では「社会教育への予算がつかない」、「公民館が大切にされていない」との話をよく聞きます。しかし、社会教育は自治体の責務として

定められており、執行しなければならぬ行政のひとつとなっています。それにも関わらず社会教育が停滞しているとするば、市町村教育行政を含めた全体のマネジメントが不足していると言わざるを得ません。今後、公民館側から積極的に施策提案等を実施していく必要があると考えます。

先日、国に対して本連合会から公民館の耐震化早期実現に向けて要望をいたしました。全国公民館振興市町村長連盟も足並みを揃えて要望をしたところですが、連盟では併せていくつかの項目を要望しました。

「激甚災害時の公民館復旧支援拡充」等の直接的な支援や、「社会教育主事の権能強化及び必置規定順守の推進」、「地域産業、公衆衛生、福祉等あらゆる市町村行政に対して社会教育の面からアプローチできるような体制整備」など、六項目にわたります。(詳しくは当該連盟ホームページに公開されています)

社会教育を停滞させることは、国民の不利益となって甚大なる損害をもたらすと考えております。決して「あってもなくてもいいようなもの」ではありません。冬を迎えるにあたって断熱材は住宅の保温には欠かせない建材となっております。しか

し、公民館に対する想いの熱さに断熱材は不要です。心の内側にこもった公民館に対する熱い想いはどんな外に放出して、「北海道公民館協会」という「大きな公民館」に集い、お互いにあたためあうことで、日常の「集い、学び、結ぶ」を実践しながら、関係各位の力を結集しようではありませんか。

終わりになりますが、平成二十六年の全国公民館研究集會は埼玉県熊谷市を中心に開催されます。大会テーマは：

「公民館よ あつくなれ！」

平成二十六年十月十六～十七日開催です。全国の多くの皆様のご参加をこの誌面をお借りしてお願いいたします。



公民館は地域

「コミュニティの核

今回の全国公民館研究集会は、第五十七回北海道公民館大会を兼ね、「地域を育む公民館活動」～コミュニティづくり」に求められる公民館のあり方」をテーマに開催しました。

開会行事では、来賓として文部科学省生涯学習政策局 清木局長代理の坪田知広社会教育課長、高橋はるみ北海道知事、能登芳昭富良野市長他、多くの方々の出席をいただき、主催者側からは、実行委員長の北海道公民館協会 松藤藤吉会長及び副会長の皆様並びに全国公民館連合会 鹿熊久三会長他、全公連役員の皆様が出席いたしました。

開会行事の冒頭、松藤実行委員長が、「富良野市は戦後いち早く公民館活動に取り組んだ地域であり、公民館が地域づくり、人々の絆づくりに果たした役割からみて、本研究集會が開催されることは意義深いものがある。おもてなしの心でお迎えす

るよう準備を進めてきたので、深まる秋のなか、思い出深い集いとなるよう期待する」と開会挨拶を行いました。

続いて鹿熊会長より、「公民館は学習活動を通じて地域コミュニティの形成、活性化を促し、地域の抱える課題を適切な形で解決する基盤となり、その拠点として重要な役割を



高橋はるみ知事 歓迎の挨拶

果たして行くものです。公民館が人と人の絆、支え合いの大切さを結ぶ、地域コミュニティの核となることを願っており、本研究集会で共有された成果を、地域住民の共感を得て、期待にこたえていかれることを、心から願っております。」と挨拶がありました。

その後、来賓として文科省の坪田社会教育課長が来賓挨拶をし、高橋道知事、加藤道議会議長代理の地元富良野市選出の本間 勲道議会議員、能登富良野市長が歓迎の挨拶を行いました。

全国公民館連合会 表彰受賞者

全国公民館連合会表彰が同時に行われ、道内からは、優良職員表彰一名と永年勤続表彰五名の皆さんが表彰されました。おめでとうございました。

◆永年勤続職員表彰

- 星 護 氏 (和寒町)
- 山本 将誉 氏 (富良野市)
- 大西 功 氏 (浦幌町)
- 渡辺多賀志 氏 (上川町)
- 新名 強 氏 (士別市)



優良職員表彰 長谷川姫代美 氏



永年勤続職員表彰 山本将誉 氏

◆優良職員表彰
長谷川姫代美 氏 (利尻富士町)

“むすぶ”機能を発揮できる公民館力を 大会宣言採択

全国公民館連合会の石川常務理事が大会宣言文を読み上げ、全会一致で採択されました。大会宣言文は次のとおりです。

☆ ☆

東日本大震災の復興への努力が少しずつ実を結んで、人々に笑顔が戻った様子等が報じられる度に、安堵感でいっぱいになります。こうした大災害への対応は、国を挙げて行われることは言を待ちませんが、国民一人ひとりが、心の中にそれをしっかり刻み込み、いつまでも忘れないようにすることが大切です。震災以降、公民館に対する社会からの期待や要請は、公民館が単なる集いの場、学習の場だけではなく、人々が集い学び合う事を通じて社会



大会宣言 石川常務理事

つしを求めて

本家 倉本 聡 氏

のために“何かをなすこと”が、強く求められるようになりました。

それは言うまでもなく、公民館の最終の目的である“むすぶ”という機能の充実・強化です。

今年一月に「第六期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」が公表されました。ここでは、今後の我が国の目指す社会を「生涯学習社会」と明確に位置づけています。「生涯学習社会」とは一人ひとり

が、

①個性・能力を伸ばし、充実した人生を切り開く(自立)

②それぞれの持ち味を生かし、協力し合う(協働)

③自立・協働を通じて、さらなる価値を生み出す(創造)

の三点を実現するために思う存分に努力を傾注でき、やり甲斐や生き甲斐を感じることでできる社会です。

“むすぶ”という機能を、大いに発揮できるような“公民館力”が、いま全ての公民館に改めて問われているのです。

そこで本日、ここ北の大地富良野で一堂に会した私達は、公民館が地域にとって、さらに無くてはならない存在となるよう、今後一層努力し合うことを誓い、参加者全員の総意をもって、以下の四点を宣言します。

一、誰もがちよつと立ち寄ってみたくなる公民館にします。

二、自己変革・自己向上が図れる公

民館にします。

三、地域社会で必要とされるリーダーが育つ公民館にします。

四、人と人との絆を紡ぎ幸せを実感できる公民館にします。



公民館の歌を斉唱

公民館の現状と今後の方向性

文部科学省施策説明

開会行事後、文部科学省生涯学習

政策局社会教育課 坪田知広課長よ

り公民館の現状と今後の方向性」と題して施策説明が行われました。公民館の成り立ちと現状の説明後、社会教育行政の今後の方向性において、社会教育に関する事務の所管について、社会教育は近年、首長部局との関係も深く、首長部局に補助執行、事務委任されている例も見られる。学校教育との連携の観点から、学校教育行政と一体として担当する利点が大い。一方、自治体の組織編成における自由度拡大の観点から、自治体の判断により、選択制とするなど弾力化を図っていくことも一考に値する。いずれの場合であっても、教育の特性について配慮する仕組みが必要と説明しました。

公民館が進むべき方向性では、今年度からの新規事業である「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」を紹介し、公民館等が行政の関係部局の垣根を越え、地域自らが特色を持った地域づくりの取



文科省行政説明

組支援を行い、社会教育を活性化することを通じて、地域の絆、地域コミュニティの再生及び地域活性化を図り、元気な日本を取り戻すことを目指すことが大事であると述べていました。

最後に、公民館が地域の中で力を発揮するために「地域のニーズ(＝市民のニーズ)を把握」、「実的生活中に即する教育」、「人材育成、関係団体のネットワーク化」がキーワードであると話されていました。

冒頭、自身の公民館での演劇公演の経験から、人間とは感動を共有できる動物であることから、人が集ってそこできかない何かができる公民館の存在意義について励ましを頂き、また、文化活動に対する官民一体となった協力の在り方や取り組み方についてもお話がありました。

戦後の日本は、「民主主義や資本主義の発達によりモノが豊かになるのと平行して、依頼やお金で物事を解決しようとする効率性や合理性が

記念講演

「当たり前」の暮らしを求めて」

脚本家 倉本 聰氏

染みつき、本来人間が生きていく上で個々に必要な生産的な活動や物事をやり遂げようとする姿勢を忘れてきているのではないか。」「知識を得ることや前例に倣うことが偏重されることにより、自分で体験して得た一次情報、即ち知恵を使って生きていく機会を失ってきているのではないか。」「そして、このような生き方の変化に気づくことなく、自分がやっていることと生きていくことを結びつけて捉えてみたり、それに対して本来感じ取らなければならぬことを考えたりする機会が失われているのではないか。」などといった提言をいただき、今後の公民館活動に対して貴重な示唆を頂きました。



来年度は
埼玉県で開催

一日目の最後に行われた閉会行事では、平成二十六年度の開催地である埼玉県に全国大会旗が引き継がれ、埼玉県公民館連絡協議会 野口信夫会長が次期開催地として挨拶をし、開催市となる埼玉県熊谷市を紹介しながら次年度の出席と盛会を呼びかけました。

来年度は、「公民館よ あつくなれ！」時代の変化に対応し、地域との連携を深める公民館をめざしてをテーマに、熊谷市を中心に十月十六日(木)、十七日(金)の二日間開催されます。

道内からも多くの公民館関係者が埼玉県大会に参加されるようお願いいたします。



鹿熊全公連会長より来年度開催県の埼玉県野口会長へ大会旗が引き継がれる



大会旗が松藤道公協会長より鹿熊全公連会長へ返還される



活発な意見交換 スーパード塾にて

今回の「全国公民館研究集会」の二日目は、分科会ではなく、「学校」「スポーツ」「防災」「文化活動」「高齢者」の五つのテーマを核としたコミュニケーションづくりについて、塾長の講話、実践発表、参加者による意見交換を通して、コミュニケーションづくりにおける公民館のあり方を学ぶ場として「スーパード塾」を開催しました。

それぞれの塾の概要は次の通りです。



吉田塾

「学校を核とした

「コミュニケーションづくり」

NPO法人教育支援協会代表理事の吉田博彦氏を塾長とし、コミュニケーションスクールを核として、コミュニケーションを中心に進めました。

実践発表では、埼玉県久喜市教育



委員会教育部生涯学習課課長補佐の朝武紀雄氏から、市民大学での学びについてと、放課後子ども教室ゆうプラザについての発表がありました。この事例は、地域の多くの人が放課後子ども教室や学校応援団へ参画し学習の成果を還元することで、その活動から新たに学び、そして学ぶ意欲が生まれているという「学びの循環」が起きている事例でした。

吉田塾長からは、公民館だけでなくさまざまな問題解決は難しく、共に協力し何かをなすための場所として公

民館があるべきであり、様々な課題の中の一つとして「学校」をテーマにあげ、大人同士がどのように協力していくかなどを考える必要があるとお話されていました。



佐藤塾

「スポーツを核とした

「コミュニケーションづくり」

北翔大学生涯スポーツ学部の谷川松芳教授の進行により、塾長のNPO法人総合型地域スポーツクラブエ

スポルチ秋田理事長の佐藤勇一氏から、公民館職員時代の「勉強して実践し、人を育てて継続していくシステム作り」という公民館の考え方を基に、「移動図書館」や「ふるさと村」、「サイクリングターミナル」等、数々の企画実践やスポーツ少年団を母体とした総合型地域スポーツクラブの設立から現在の社会経済情勢に対応したクラブ運営の体験まで、公民館におけるスポーツの役割とはスポーツと他分野の連携ではないかとの講話がありました。



また、石川県公民館連合会会長の谷村昭雄氏から、金沢市の公民館の現状と地域主導型という特徴、体育大会等のスポーツの取り組みからコミュニティづくりが行われている事例や二〇一五年に行われる金沢マラソンと公民館の関わりについての実践発表が行われました。

質疑応答、意見交換は、行政との関わり方、公民館とスポーツが結びつくにはどのようなことからスタートした方が良いかや塾長講話の補足、神奈川県厚木市で公民館が軸になっ



てスポーツ活動が行われている事例や公民館がない市町村もあり公民館活動をどのように行っていけばよいか等課題解決に向けて活発に意見が交わされていました。

最後に佐藤塾長から、公民館がスポーツを生活の一部にするという方針を考える必要があるのではないかと、公民館がなくなっている現状があるが、それに対し必要性を感じ復活する動きも出ている。魂があり、人がいて、みんなと一緒に勉強していく。そういう機会を提供していくのは公民館しかできないので必要性を訴える必要があるのではないかとこの助言がありました。

コーディネーターの谷川教授から、スポーツ活動は地域の人々の命と暮らし、健康を作っていくために日常的な活動が必要であり、健康作り、絆作り、コミュニティ作りをする拠点である公民館をもう一度考えなければいけないと話があり、閉会しました。



出口塾

「防災を核とした

「コミュニティづくり」

文部科学省初等中等教育局参事官 付学校運営支援企画官の出口寿久塾長から、二〇一一年台風十二号災害における、和歌山県内のボランティア活動と地域コミュニティ活動の調査から見えた、社協・行政・民間団体の連携や連絡調整の重要性及び防災教育の役割と重要性のほか、公民館に求められる中核施設としての役



割について講話がありました。

また、福島大学うつくしまふくしま未来支援センターの天野和彦特任准教授より、東日本大震災の避難所で生まれた生活支援ボランティアセンター「おだがいさまセンター」の



「交流の場の提供」と「自治活動の促進」を軸とした活動内容の報告がありました。

質疑応答・意見交流では、災害時における障害者や外国人などへの対応法の話題をとおして、地域のつながりづくりや人材育成にかかわる公

民館の役割を改めて再確認しました。



太田 塾

文化活動を核とした

「コミュニティづくり」

塾長講話は、富良野演劇工場長である太田竜介氏から受け、富良野演劇工場の建設にあたり、演劇に特化し演劇者の目線で作られ、客席より大きな舞台や演者が使いやすい舞台裏、楽屋等について紹介されました。劇場は、全国で初めてNPO法人に



認定された「ふらの演劇工房」が運営し、感動を与える舞台芸術を創造している。活動事例として、地域の子ども達と共に稽古を重ね、発表し、今年で十一回を数える演劇祭について紹介され、これまで延べ二千名を

超える子どもが出演しているという。



実践発表は、岩手県演劇協会会長坂田裕一氏から震災からの復興の中で取り組んでいるコミュニティ作りについて事例報告がされました。後半は、文科省坪田社会教育課長のコーディネートにより、百十一名の参加

者と共に議論を深めました。



讃岐 塾

高齢者を核とした

「コミュニティづくり」

塾長講話は愛媛大学名誉教授の讃岐幸治氏より、公民館に関わった経緯と時代の流れについて話がされました。自分が公民館にかかわったのは三十八年前で、自治公民館長への話があり、公民館をどのように活用するかを考えたのがきっかけである。子育てと金儲けに興味があった年代であった。子育てを中心としたコミュニティづくりを子育て共同団体と行う。それから、四十年を経過すると子育て共同団体の衰退から学校の統廃合そして、老人ホームの建設、高齢者の増加から孤立化が増加していた。いつも診療所に来るお年寄りが来なくなった↓家で風邪をひいて寝込んでいる↓元気になったらまた診療所に来るようになった↓一人ではいられない。お年寄り一人ひとりに話をきくと違う意見が出てくる↓

必要とされたいと思っている。お年寄りの方は、時間があり、経験、人脈もある。反対に人から命令されたくない。コミュニティとはどういったことで、出来るのか？



一、学校と地域の一体化(信頼関係がないと成立しない)
二、目標・価値の一本化、目指す方向性の一体化
三、どのように協働していくか
以上の三つのことを考えないとコミュニティとはならない。

地域コミュニティが地縁集団になつていないか、全てをひっくりかかめていかないと空洞化していく。

○価値の共有化

今は会席膳型、これからはおでん型にしていくが必要。今までは自分を抑え公に尽くすことが行われていた。今はそれぞれの持ち味を活かす、減私奉公ではなく、活私創公で行っていく必要がある。

一人一品運動↓それぞれの力を出して、全体を作る。

○自足化↓豆腐型から納豆型へ

人に例えれば、それぞれの個性を混ぜ合わせて、型にはめてきたそれぞれの個性(ネットワークづくり)をそのままに型に入れる。それぞれが糸を引っ張る活動。

実践発表では、島根県教育庁義務教育課心の教育推進グループ社会教育主事 山本 一穂氏より発表がありました。山本氏は、島根県の場所を知らない人が多い↓認知度が低い、五九市町村↓今では十九市町村になった。高齢化率は三十%、公民館は全部で三百二十七館あり、企画プ

レゼンテーション大会を実施し、公民館ごとにそれぞれ地域の課題を発表、これからのような地域にしていくかということも発表している。狙いは県職員に地域での頑張りを知ってもらうためである。また、この企画プレゼンテーションの発表を



するまでのプロセスを大事にしている。少子高齢化社会だからこそ大人数をまきこんでいくかが大事である。高齢者から子供たちに経験談や知恵を教える、それが地域、団体をつないでいくことになり、高齢者の方

も自分たちに出番があり、活気がついていくことになる。



佐藤塾 会場



吉田塾 会場



讃岐塾 会場



太田塾 会場



出口塾 会場

道教委通信

多様な当事者がつながるために

皆様方におかれましては、日ごろから、公民館の運営はもとより、それぞれの管内の社会教育の推進及び生涯学習の振興・充実に御尽力いただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

さて、前号でも触れさせていたいただきましたが、東日本大震災以後、地域の絆の重要性が改めて確認されたことをきっかけとして、社会教育の力に今一度、注目が集まっております。とりわけ、社会教育推進の現場において、多様な地域課題に応じた取組や、地域活動を担う人づくりが積極的に推進することが大きく期待されているところです。

このような中、道教委では、関係者の「つながり」の構築と、様々な地域課題の解決に向け、子どもの教育活動を核とした関係者の課題の共有やネットワーク形成を目的として、去る十一月二十二日(金)、「子どもの心と体を育む生活リズム全道フォーラム」を開催いたしました。子どもの生活習慣をテーマとするフォーラムでしたが、社会教育・学校教育に携わる関係者はもとより、通学合宿や自然体験、読書活動など、地域における子どもへの体験活動に

様々な立場で取り組む方々にお集まりいただきました。

情報交流の場面では、そうした参加者に日ごろの取組を紹介し合いながら活動の目的や思いを共有する機会の重要性を認識いただくとともに、これからの地域づくりで大切な、当事者の「つながり」が新たな「活力」を生む可能性を改めて確認させていただきました。

今回御参加いただいた方々が、本フォーラムでの様々な学びや気付きを各地域に還元していただけるものと考えております。

公民館の関係の皆様におかれましては、日ごろから「つながりや絆」を育む中核となり取組を実践していただいているところでありますが、今後とも、各地域の特徴を生かし、様々な地域資源と意図的に結び付きながら、公民館のもつ機能を発揮していただき、住民の笑顔を引き出す地域づくりに御尽力いただくようお願いいたします。



一堂に会した参加者の様子(「子どもの心と体を育む生活リズム全道フォーラム」より)

願ひ申し上げます。

道教委といたしましては、今後も、現場の多様な取組を支える人材育成等を推進し、地域における主体的な課題解決の実践を支援してまいりたいと考えておりますので、引き続き、御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

(文責 生涯学習推進局生涯学習課)

事業のご案内

多様な関係者が集い学ぶ機会として、様々な事業を実施いたします。是非、多くの御参加をお待ちしております。

○生きる力をはぐくむ子どもの読書活動ネットワークフォーラム

趣旨

読書で得た知識を実体験で活用する取組事例などを講演やトークセッション、展示などで紹介し、地域における子どもと本をつなぐ人たちのネットワークを構築します。

日時・会場

平成二十六年一月二十五日(土)
ホテルライフォート札幌

○平成二十五年年度

学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業全道事業成果報告会

趣旨

学校支援地域本部や放課後子どもプラン、家庭教育支援等の様々な教

育支援活動に携わる関係者が一堂に会し、それぞれの取組の成果や課題を交流することを通して、今後の活動のあり方について考える機会とします。

日時・会場

平成二十六年一月二十九日(木)
かでの2・7

○北海道「親力」つむぎ事業全道フォーラム

趣旨

保護者、子育てや家庭教育を支援する活動に携わる関係者などを対象に、「親力」の必要性や重要性について共通理解を図るとともに、地域の課題などについて交流します。

日時・会場

平成二十六年二月十一日(火)
札幌エルプラザ

○平成二十五年年度

地域生涯学習活動実践交流セミナー

趣旨

本道における生涯学習・社会教育の一層の推進を図るため、国の動向や関連施策等について理解を深めるとともに、実践事例の交流を通して、地域における生涯学習活動推進上の課題解決を図るための研修を行います。

日時・会場

平成二十六年二月十三日(木)
かでの2・7
十四日(金)